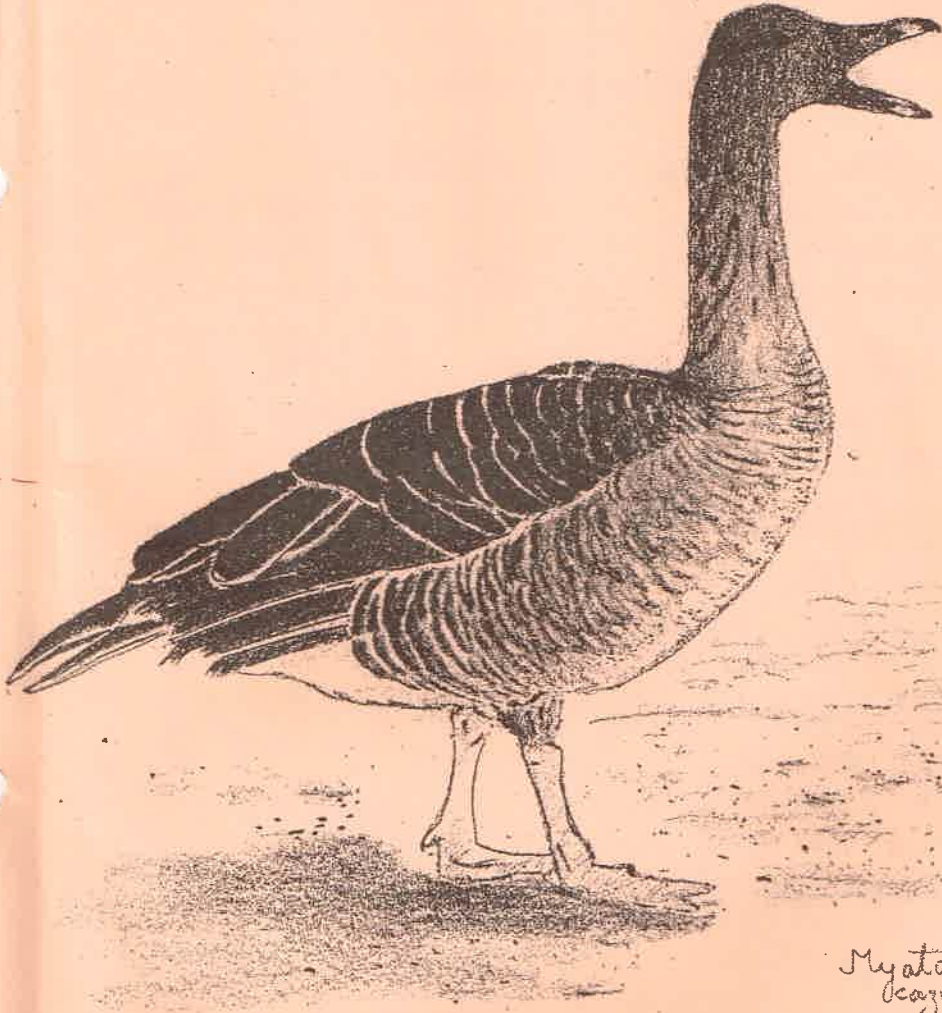


五ヶツ



Myata
Beagna

2009年夏季号 89

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

- 1、半世紀の流れ 会長 田村 允郁
- 2、第24回 定期総会 講演会、総会報告、
・総会議案 広報部
・講演していただいた野呂一夫さんからの資料 事務局
- 3、新たな行事、アポイ岳研修会、マルハナバチ防除など
- ・アポイ岳会員研修会 副会長 五十嵐一夫
 - ・アポイ岳研修会に参加して 江別市 松本亜由美
 - ・セイヨウオオマルハナバチマスターズに参加して 千歳市 宮本 健市
 - ・セイヨウマルハナバチ監視活動についての注意
＜この取り組みに関しての注意事項＞ 富良野市 南部 栄一
 - ・私たちの観察会に参加し取材してくれた
啓成高校の新聞から
- 4、連載
- ・トゲウオのこと 苫小牧市 谷口勇五郎
 - ・屋久島（2）一宮之浦岳登山 恵庭市 小林 英世
- 5、役員会、支部活動、観察会の案内、育成研修会など
- ・役員会 資料
 - ・オホーツク支部の活動、研修会案内
 - ・今年度、ボランティア・レンジャア育成研修会 案内
 - ・自然観察のご案内

編集後記

半世紀の流れ

会長 田村 允 郁

ほぼ50年前というと、学校を出て社会人となった頃です。赴任先は帯広市でした。帯広市と言えば聞こえはいいのですが、日高の山が目の前に迫るふもとで、帯広の中心地より約18km、人家が何軒かある、戸蔦という場所の小さな僻地の学校でした。この学校はその後、統合により廃校になってしまいました。

この時親しくなった帯広に住む友人二人から、十勝川温泉で親交を深めようと誘いがあったのは、今年5月の下旬でした。約束した温泉宿には夕刻入ればいいので、日中は戸蔦の地を訪れてみよう、朝早く家を出たのでした。

急ぐことでもないので高速道路は使わず、夕張紅葉山から日高道の駅を経由して日勝峠を越えると晴天の十勝平野が広がっていました。

国道に出ず、山際の農道を通り、芽室、上美生を過ぎると、清川そして戸蔦に出ますし中札内にも通じています。廃校になった学校は防風林に隠れひっそりと立っていました。

ブロックで建てられたこの廃校舎の壁はぶち抜かれ、教室の部分には麦の刈り取りに使うであろう大型コンバインが収納されていました。裏手のグラウンドがあった場所は畑になり、ビートの苗の畝が直線条に延びています。その畑と校舎の境目にスズランの花が葉に隠れて咲いていました。50年前の運動会の時期、父兄や子どもたちとグラウンドに侵入してきたスズランを草取りクワで取り除いたことが思い出されます。カシワやカラマツの防風林は昔のままで、冬の間つけていたカシワの葉も落ち、新芽が吹いています。見渡すと畑の中に点在していた人家はほとんど見当たらず、離農を余儀なくされたのでしょうか。物音一つしないこの風景と、少ない子ども的人数ではありましたが、学校が動いていた時との画像が重なり、唐代の詩人 杜甫の「春望」冒頭の一節が頭をよぎります。

國破山河在 國破れて 山河在り

城春草木深 城春にして 草木深し

人の手になるものはいとも変化していくものなのに、自然の営みには変わらないものがあり、時来れば草木は芽を出し葉を茂らせるこの摂理に感心せずにはいられませんでした。

防風林の中から聞こえてくるアカハラの「キョロン、キョロン」のさえずりを聞きながら、50年前と何も変わらぬ目前に迫るピラミッド型の十勝幌尻岳を眺めていました。

戸蔦の市街で若き時、世話になった何件かを訪ねました。十年ほど前にも訪ねたことのある一軒は、跡形もなく更地になっていました。農機具の修理などを生業としていたその

ご主人は早くに奥さんを亡くし、成長した子どもさんたちは帯広の街に住んでいて、一人住いの生活でしたが、4年前に亡くなったことを近隣の家で聞かされます。この地での生活で暇を持て余していた時、日高の山を源流とする戸蔦別川でヤマベ釣りの手ほどきを受けた思いで話をとっていたのですが、心が落ち込みます。

戸蔦市街の横を流れる戸蔦別川の川縁に降りてみました。アキタブキの雌株の花茎が伸びきっています。澁みを覗くと、ウグイが群れ、川底に川カジカがへばりついていて、川筋が変わったぐらいで、あとは何も変わってはいません。

唐代の詩人 劉希夷 七言古詩 「代悲白頭翁」の一部が、頭にすんと落ちてきたのでした。

年年歳歳花相似 年年歳歳 花相似たり
歳歳年年人不同 歳歳年年 人同じからず

どういう訳か十勝川温泉での友人たちとの雑談は昔話は少なく、とりとめのない話のほうが心をなごませます。ビールとモール温泉を堪能し、来年は札幌でやろうとの約束で翌日の昼、友人二人と別れました。途中、美生に立ち寄りしました。遅咲きのサクラはカスミザクラでしょうか。パークゴルフ場のまわりに密生して咲くセイヨウタンポポに沢山のチョウが群れています。

花無心招蝶 花 無心にして蝶を招き
蝶無心尋花 蝶 無心にして花を尋ぬ
花開時蝶来 花開く時 蝶来り
蝶来時花開 蝶来る時 花開く

天衣無縫の生き方をした、良寛の漢詩の一節です。

花は蝶を招こうという意志がなく蝶を招き、蝶は花を訪ねようという意志のないまま花を訪れる。お互い天の法則に従い生きているのでしょうか。

自らを見つめる余裕も少しはでき、そして、ほんのちょっと悟り、自らの力不足を他力に委ねる謙虚さも少しは身に付け、森羅万象に畏敬の念を抱きながら生きようなどと、奇特な心が芽生えます。70代に突入すると、生き方、考え方も抹香臭くなるのでしょうか。

山川草木悉皆成仏 合掌

しかし、俗人の悲しさで、日勝峠の登り口の清水町の市街で、有名な蕎麦や「目分料」に入ると、適当を生き様としている我が身が店名に共感し、蕎麦をすすると、これからのあるべき生きる姿など、霧散してしまいました。

青く澄み渡った十勝平野を下に見ながら車は日勝峠を登りつつ、帰途についたのでした。

三つの新しい事業に取り組むことを確認

—アポイ岳のササ刈り、セイヨウマルハナバチ、オオハンゴンソウの防除—

4月25日(土)、札幌エルプラザで第24回定期総会が行われ、事務局から提案された経過報告、今年度の事業計画などが承認された。それに先立って13時より野呂一夫さんの講演が行われた。

□ 野呂一夫さんの講演「花に戀して」 □

ユーモアをまじえながらもとても深みのある講演

100枚ものスライドから投影される美しい写真を用いて、わかりやすく深みのあるすばらしい講演でした。大雪の山々を長年にわたって歩かれて観察し、調査し、研究してきた成果と思われます。分析の仕方もみごとなものでした。講演のテーマともなっている「花に戀して」のように自然に親しみをこめて関わってきたことがよくわかりました。多くの会員に聞いて欲しかった。

広報部の佐藤がメモを取りながら聞いたのですが、浅学のためうまくまとめることができませんでした。そこで講演の後に、野呂さんに今回の講演についてのコメントをお願いした。

< 花 に 戀 し て > 当麻町 野呂 一夫

スライドを使って90分の話をする場合、スライドは90分以内に収める。話す内容は構成段階で考え、原稿は作らない。仮に用意したとしても、暗い場所では役に立たないからである。だから、大事なことを落としたりする。また、調子に乗り過ぎて余計なことを喋ったりもする。でも、終了時間だけは1分たりとも超過させたくない。とどのつまり、時間不足で後半は端折ってしまうことになる。

ところで今回は、80分だから80枚前後が適当であろう。だが、ここは「自然大好き人間」の集う場。一種類でも多くの植物、一つでも多くの事象を紹介したい。そこで欲張って、100枚で構成した。結果は案の定、後半は超特急でまとめは「尻切れトンボ」。反省と同時に、大変申し訳なく思っている。でも、話を終えた後私はこれまでにない充足感を覚えていた。

- ・黒岳の写真反対でない? = ごめんなさい。
- ・サルファー山から見たポー河……「帰らざる河!」 = ウーム。
- ・*Gentiana algida f. igarasii* ~ 発見者の祖父の名です = そうだったんだ!
- ・(おこから)ウラシマツツジでしょ。 = おそれいました。

こんな嬉しい交流が随所にあり、内容に深みと厚みをもたせてくれた。さすがは「ボ

ラ・レン」と、会員のレベルの高さに感服させられたのである。

草を褥に木の根を枕 花と戀して九十年

朝夕に草木を吾の友とせば 心さびしき折ふしもなし

心より感謝申し上げます。有り難うございました。

15時より、第24回定期総会が開催される。

総務部の三崎さんより、総会出席者36名、委任状65名、合計101名でもって総会が成立していることが報告される。

会長の田村さんから今年度の観察会、新しく取り組む外来種の防除、他団体との協力関係を一層深めていくことなどが話された。

つづいて来賓の挨拶をいただいた。道環境生活部野幌公園分室主査の立花英之さんからは、今日自然観察会のはたす役割が大きくなってきていること、さらに私たちの新しい取り組みである外来種の防除活動に期待をしていることが話された。

ふれあい交流館副館長の山田健さんからは、多くの観察会で協力しあい、今後とも一層協力関係を続けていきたいと挨拶された。多忙のなか来賓のみなさんに温かい励ましのメッセージをいただいた。

議長に井内さんを選んで議事に入る。

1号議案「平成20年度事業報告」「平成20年度決算報告並びに監査報告」

それぞれ担当する分野の部長さんからの経過報告などがあって承認された。

つづいて事務局長の春日さんから今年度の事業計画、特に新しく取り組むアポイ岳研修でのササ刈り、野幌森林公園でのセイヨウマルハナバチ、オオハンゴンソウ防除などが提案された。研修部の小林さんから今年度の「観察会」、小樽支部の北原さんから「小樽支部自然観察会」について説明された。さらに事務局からオホーツク支部の研修会についての報告が、参加し協力していくことが確認された。

今年度の事業計画は自然保護をも含めた意欲的な提案となっています。私たちの活動の新たな質をともなった展開となっていくと思われまます。

出席者から、機関誌『エゾマツ』にコラムなどを投稿したいが、どうかと言う質問があった。それに対して広報部の佐藤から機関誌の編集方針として広く会員のみなさんの意見を掲載したいと考えているので、ぜひ「ボラレン・広場」のコーナーをはじめとして投稿をお願いしたい、と答えた。

第2号議案の今年度の事業計画、収支予算などが拍手で承認された。

なお、役員の任期は2年ですので改選はありませんでした。



講演された野呂さん

平成 21 年度 第 24 回定期総会日程

日時 平成 21 年 4 月 25 日 (土曜日) 13:00~16:30
会場 札幌エルプラザ 2 階 環境研修室
受付 13:00~13:30
研修会 13:30~14:50
総会 15:00~16:30

《研修会》 講演 野呂 一夫氏 (ボラレン会員・上川郡当麻町在住)
<現在>環境省 環境カウンセラー
<主な著書> 共著「大雪山の高山植物」北海道新聞社 昭和 53 年
「北の野草 100 選」総北海 昭和 59 年
共著「当麻町野生植物図鑑」当麻町 昭和 60 年
演題 「花に戀して」～大雪山の高山植物あれこれ～

《定期総会》 司会進行 三崎 篤
(出席・委任状・総会成立確認)

- 1, 開会
- 2, 会長挨拶 田村会長

来賓紹介と来賓挨拶

北海道環境生活部環境局自然環境課野幌公園分室主査 立花 英之 様
自然ふれあい交流館副館長 山田 健 様

- 4, 議長選出と議事録署名人の選出
- 5, 議長就任挨拶と議事録署名人の紹介
- 6, 議事

1 号議案

- ・平成 20 年度事業報告
- ・平成 20 年度決算報告並びに監査報告

2 号議案

- ・平成 21 年度事業計画 (案)
- ・平成 21 年度収支予算 (案)

- 7, 議長解任
- 8, 閉会

《連絡事項》

1号議案

1. 平成20年度事業報告

(1) 観察会事業

月	行事名	実施月日	集合・解散場所	参加人数		備考
				一般	会員	
4	春の花を見つけよう	24日(木) 10:00~12:30	交流館集合・解散	60	15	共催
	赤岩山と胎内巡り	27日(日) 9:00~14:30	路線バスオタモイ駐在所前9時	60	札幌から8	小樽と札幌と小樽博物館の共催
5	春のありがとう観察会	11日(日) 10:00~14:30	交流館集合・解散	49	10	共催
	恵庭公園観察会	18日(日) 10:00~12:00	恵庭公園駐車場集合・解散	5	8	主催
	三角山登山観察会	25日(日) 10:00~14:00	緑花会館登山口集合・解散	2	6	主催
	アポイ岳研修	5月31日(土)~6月1日(日)	アポイ岳調査研究支援センター		19	研修
6	北広島しくの森観察会	8日(日) 10:00~12:30	しくの森入口集合・解散	10	8	主催
	森の新緑観察会	15日(日) 10:00~12:30	交流館集合・解散	77	16	共催
	東大演習林研修	27日(金)・28日(土)			28	主催
7	初夏の森観察会	6日(日) 10:00~12:30	交流館集合・解散	20	13	主催
	芸術の森周辺観察会	20日(日) 10:00~12:00	芸術の森停留所前集合	9	13	主催
8	夏の森の観察会	7日(木) 10:15~12:30	村集合・瑞穂の池解散(時計回り)	36	14	共催
	鷺川研修会	30・31(土・日)	鷺川四季の館		22	主催
9	秋の花で賑わう森を歩こう	11日(木) 10:15~14:30	村発着・交流館屋舎休憩	92	16	共催
	育成研修会	26日(金)~28日(日)				
10	秋の森の匂いをかごう	19日(日) 10:00~14:30	交流館集合・解散	95	17	共催
11	陝秋の森観察会志文別コース	3日(月) 10:00~14:30	交流館集合・解散	22	14	主催
	秋のありがとう観察会	9日(日) 10:00~12:30	交流館集合・解散	30	12	共催
	西岡水源地自然観察会	23日(日) 10:00~12:30	管理事務所前集合・解散	8	13	主催
1	円山登山観察会	18日(日) 10:00~12:30	円山登山口集合・解散	4	10	主催
2	冬の森の観察会	15日(日) 10:00~12:30	交流館集合・解散	58	6	共催
	薬岩山登山観察会	22日(日) 10:00~14:30	慈恵会登山口集合・解散	1	5	主催
3	森の中で春を探そう	22日(日) 10:00~12:30	交流館集合・解散	68	9	共催
	参加者総数			706	292	

(2) 地方・支部の活動報告

①小樽支部観察会

実施日	行き先	一般参加	ボラレン	補助員	合計	備考
4月27日	オタモイ～赤岩	40	14	6	60	
5月5日	塩谷丸山	32	4	3	39	
5月14日	濃昼山道	27	6	0	33	貸切バス
6月1日	松倉岩	25	4	0	29	
7月10日	神仙沼～白樺山	20	3	0	23	
9月13日	春香山	19	4	0	23	
10月11日	自然の村～穴滝	13	6	0	19	
10月30日	天狗山～オコバチ川	18	6	0	24	納会
2月23日	小樽市有林内	9	3	1	13	カンジキ
3月20日	天狗山～勝納川	13	4	2	19	カンジキ
計		216	54	12	282	

(3) 研修会事業

・4月26日(土)

◇演題 「持続可能な循環社会の実現のために」

講師:東 龍夫 氏 (有)ひがしリサイクルサービス代表取締役

◇演題 「「セイヨウオオマルハナバチマスターズについて」

講師:富樫 崇 氏 北海道環境生活部環境局自然環境課

セイヨウオオマルハナバチ特定生物グループ主任

・5月31日(土)～6月1日(日) アポイ岳研修会

・6月27・28日(金・土) 一日目、山部の太陽の里周辺で観察・研修

二日目、大麓山登山、演習林研修、植樹、枝打ちなど

・8月30・31日(土・日) 鷓川研修会

(4) 他団体への協力・派遣事業

・5月13日(火) 第11回環境道民会議総会 教育文化会館 会長・春日出席

・5月27日(火) 野幌森林公園内ゴミ拾い事業「クリーンクリーン野幌森林公園」
会員3名で対応

・9月26日(金) 江別第二小学校3年生総合学習対応 ボラレン会員6名で対応

・野幌森林公園の希少生物調査～石狩地域森林環境保全センターとの関わり

・同上～鳥類調査講習会(4月5日)

・同上～「希少生物調査説明会」(4月12日 10:00～ 会場:自然ふれあい交流会)

(5) 広報誌「エゾマツ」・「NOW」発行事業

- ・2008. 6. 23 エゾマツ 85号発行
- ・2008. 10. 24 エゾマツ 86号発行
- ・2009. 1. 30 エゾマツ 87号発行
- ・2009. 3. 25 エゾマツ 88号発行

(6) 会議

- ・2008. 5. 12 第1回役員会 18:30～ エルプラザ会議コーナー
- ・2008. 9. 24 第2回役員会 18:30～ エルプラザ会議コーナー
- ・2009. 1. 30 第3回役員会 18:30～ エルプラザ会議コーナー
- ・2009. 4. 10 第4回役員会 18:30～ エルプラザ会議コーナー

(7) 育成研修会の取り組み

- ・自然ふれあい交流館との打ち合わせ 2008/6/15・2008/9/11
- ・育成研修企画会議 2008/8/26・2008/9/4 委員長：小林、委員3名
- ・参加者16名 ボラレンへの加入者10名

(8) 主催事業などのPR

①印刷物を通して

北海道ウォッチングガイドに掲載・札幌市環境局発行「エコポロ」に掲載・暮らしの新聞社「まんまる新聞」に掲載・札幌市の区民センターにチラシ配布・西岡公園事務所にてチラシ配布・ジャスコ札幌平岡、ジャスコ札幌元町、ポスフル藻岩、イオンスーパーセンター手稲山口にチラシ配布

②インターネットを通して

- ・ホームページアドレス <http://volaren.sakura.ne.jp>
- ・メールアドレス mailbox@volaren.sakura.ne.jp
- ・札幌市の環境局のホームページの「エコポロ」
- ・市民活動サポートセンターホームページ <http://www.shimin.sl-plaza.jp/>
- ・札幌エルプラザのホームページ
- ・さぼーとほっと基金のホームページ

(9) その他の活動

①ボランティア活動保険加入手続き

②「さぼーとほっと基金」団体登録・助成に関する説明会（5月16日）

- ・札幌市民まちづくり活動促進基金団体登録決定通知書届く（7月10日）

- ・市民まちづくり局自治推進室市民活動促進担当課訪問・会長・三崎・春日、会の様子の説明（7月23日）
- ③北海道水産林務部森林環境局森林活用課みどり対策グループの対応
 - ・「みどりの働民」に登録
 - ・「みどりバンク通信」が、月1回送られてくる～ボラレンの行事が掲載されている
- ④さぼーと基金ホームページ改修に関する協力
- ⑤石狩支庁産業振興部林務課対応～平成20年度に係わる緑化関係調査の実施について
- ⑥北海道環境生活部対応、1・5・7・10月の「道民環境の日」を中心に展開する自然観察会～道のホームページに掲載
- ⑦オオハンゴンソウ駆除作業について
 - ・北海道地方環境事務所対応～特定外来生物の防除認定申請～3月19日認定の通知あり。環北地野許第090319001号
 - ・江別市廃棄物対策課との相談 TEL383-4217
 - ・北海道環境生活部環境局自然環境課野幌森林公園分室対応
 - ・北海道森林管理局石狩地域森林環境保全ふれあいセンター対応
- ⑧札幌市市民活動サポートセンター対応～札幌エルプラザ活動団体登録の更新について。3月31日更新承認のFAXあり。21・22年度有効。
- ⑨環境道民会議の調査。21年度主催する環境保全に係わるイベント等の取り組み調査。オオハンゴンソウの駆除作業計画を報告。
- ⑩セイヨウオオマルハナバチ駆除について
 - ・道庁環境生活部環境局自然環境課特定生物グループ対応
 - ・北海道開拓記念館資料情報課長・学芸員 堀 繁久氏 対応

定期総会



平成20年度収支決算書(案)

平成20年4月1日～平成21年3月31日

収入額 747,450円

支出額 438,345円

差引 309,105円(次年度へ繰越)

単位:円

収入の部

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
前年度繰越金	233,335	233,335	0	
年会費	390,000	411,000	21,000	137件×3000
雑収入	11,665	103,115	91,450	保険料、協力謝礼金、ハンドブック売上代
合計	635,000	747,450	112,450	

単位:円

支出の部

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
総務部費	100,000	105,164	5,164	通信費、事務用品費、振替手数料
事務局費	100,000	37,166	▲ 62,834	通信費、事務用品費、印刷費
研修部費	100,000	59,164	▲ 40,836	研修会謝礼金、研修雑費
活動費	100,000	91,843	▲ 8,157	地方支部活動費、観察会交通費
広報部費	160,000	115,008	▲ 44,992	会報エソマツ制作費、郵送費
予備費	45,000		▲ 45,000	
特別会計	30,000	30,000	0	特別会計へ繰り入れ
合計	635,000	438,345	▲ 196,655	

単位:円

特別会計(特別積立金)

前年度繰越金	増加額	減少額	本年末残高	摘要
260,124	30,784	0	290,908	一般会計より繰入30,000・貯金利息784

平成20年度財産目録

平成21年3月31日

単位:円

借方		貸方	
通常貯金	600,013	一般会計繰越金	309,105
		特別積立金	290,908
計	600,013	計	600,013

備品

救急医療セット1箱・聴診器5本・望遠鏡2台
双眼鏡15台・簡易アイゼン5脚

監査報告書

私たち監事は、会則第12条の5に基づき、平成20年4月1日から平成21年3月31日までの会計処理について、会計帳簿および証憑書類を精査確認した結果、適正なものと認めます。

平成21年4月10日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

監事 成田 伸一

監事 高松 文雄

高松

2号議案

1. 平成21年度事業計画

(1) 事業計画の方針

目標「自然との共存、日常の実践から」

- 重点
1. 観察会の企画や実施と運営についての研修と実践につとめる
 2. 会員の意見や社会の要請を受け止め、会の活動改善に生かしていく
 3. 育成研修会での入会者の勧誘につとめる

具体化の視点

1. 会務のシステムの遂行を試みる
2. 下見会と下見後の開花情報を効果的なものにする試み
3. 育成研修会のボラレン担当部分の充実
4. 事前に観察会当日のボラ連会員参加数を把握する試み
5. ボラレンの活動領域の広がりを模索する
6. 主催事業などのPRにつとめる

(2) 会議

① 定期総会

- ・21年度定期総会 平成21年4月25日(土) 札幌エルプラザ
- ・22年度定期総会 平成22年4月17日(土) 札幌エルプラザ

② 役員会、理事会を年4回開催。三役会は必要に応じて開催。

- ・5月8日(金) 第1回役員会
- ・8月11日(火) 第2回役員会
- ・1月21日(木) 第3回役員会
- ・4月13日(火) 第4回役員会

(2) 観察会・研修会・調査活動

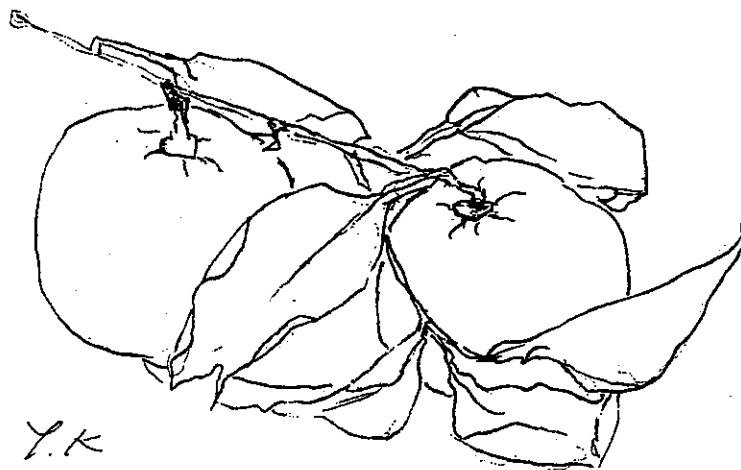
- ① 観察会については別紙による。また、サークル活動の観察会があれば随時実施。支部合同等の新しい方向を模索する。
- ② 研修会については別紙による。会員の要望と必要を取り入れ新しい試みを模索する。
- ③ 観察会の下見と実施後の反省をもとに記録の集積をはかり、活用できるものに仕上げる。

(3) 活動領域の広がり

- ① アポイ岳研修の植物再生作業の手伝い(アポイファンクラブの協力)
- ② セイヨウオオマルハナバチの捕獲
- ③ オオハンゴンソウの防除作業(市民参加による)
- ④ 野幌間伐の野生生物調査への協力
- ⑤ その他

(4) 育成研修会

- ① 研修部を中心とした特別委員会を設立し、立案・実施にあたる。
- (5) 他団体への協力
- ① 観察会ガイドの要請については、主催の目的などを把握して協力していく
- ② 各関係機関や団体が行う自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。
- (6) 広報誌「エゾマツ」の発行
- ① 年4回(6月上旬・10月中旬・1月中旬・3月下旬)の発行
- ② 誌面内容と体裁の充実に努力していく。
- ③ 観察会一般参加者に「自然観察NOW」の配布
- (7) 支部や地方会員の活動の活性化
- ① 支部や地方会員の活動化に事務局は積極的に取り組む。
- ② 各会員の思いや要望の発信を受け止めたり、広報誌による交流を活性化させる。
- ③ 会員を増やすための働きかけを強めていく。
- (8) PR活動
- ① 北海道ウオッチングガイドへの掲載
- ② TGALへの掲載
- ③ 札幌市環境局「えこぼろ」への掲載
- ④ 観察会チラシ配布～札幌市区民センター、ジャスコ関係の店、その他
- ⑤ まんまる新聞、道新など



平成21年度 観察会・研修会予定

月	実施月日	行事名	下見	集合・解散場所		備考	テーマ	当番
4	23日(木) 10:00~12:30	春の花を見つけよう	16日(木)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	早春の花・野鳥観察	春日・熊野
	10日(日) 10:00~14:30	春のありがとう観察会	9日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食・ゴミ袋・軍手持	ゴミ拾い、春の花観察	小林・高松
5	17日(日) 10:00~12:00	セイヨウオオマルハナバチを駆除しよう	担当者下見16日(土)	交流館集合・解散	主催 研修	昼食持参		室野・牧
	23~24(土・日)	アポイ岳研修			主催・研修	宿泊研修		春日・小林
	31日(日) 10:00~14:00	三角山登山観察会	30日(土)	緑花会館登山口集合・解散	主催	昼食持参		菅・三崎
6	7日(日) 10:00~12:30	森の新緑観察会	6日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	初夏の草花	室野 五十嵐
	14日(日) 10:00~12:30	北広島レクの森観察会	13日(土)	レクの森入口集合・解散	主催			佐藤・村上
	5日(日) 10:00~12:30	初夏の森観察会	4日(土)	交流館集合・解散	主催			春日・室野
7	12日(日) 10:00~12:00	芸術の森周辺観察会	11日(土)	芸術の森停留所前集合	主催・研修			今村・熊野
	26日(日) 10:00~14:00	オオハンゴンソウ防除	25日(土)	交流館集合・解散	主催	昼食持参・協力(自然ふれあい交)		五十嵐 佐藤
8	6日(木) 10:15~12:30	夏の森の観察会	7/30(木)	村集合・瑞穂の池解散(時計回り)	共催	昼食持参自由	夏の花観察、瑞穂の池	菅・田村
	22~23(土・日)	富良野東大演習林観察会			主催 研修			小林・宮田
	28~30(金~日)	ボランティア・レンジャー育成研修会						
9	6日(日) 10:00~12:00	恵庭公園観察会	5日(土)	恵庭公園駐車場集合・解散	主催			小林・橋場
	13日(日) 10:00~14:30	秋の花でにぎわう森を歩こう	12日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参	秋の花観察	
10	3/4(土・日)	蔵川研修会			主催 研修			
	15日(木) 10:15~14:30	秋の森の匂いをかごう	8日(木)	村発着・交流館屋休憩	共催	昼食持参	紅葉・木の実観察	
	3日(火) 10:00~14:30	晩秋の森観察会志文別コー	2日(月)	交流館集合・解散	主催	昼食持参		
11	8日(日) 10:00~12:30	秋のありがとう観察会	7日(土)	交流館集合・解散	共催	ゴミ袋、軍手持参・昼食持参自由	ゴミ拾い、木の实・草の实観察	
	23日(月) 10:00~12:30	西岡水源池自然観察会	22日(日)	管理事務所前集合・解散	主催			
1	17日(日) 10:00~12:30	円山登山観察会	16日(土)	円山登山口集合・解散	主催			
2	14日(日) 10:00~12:30	冬の森の観察会	13日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	野鳥・雪上物観察・交流食事会	
	21日(日) 10:00~14:30	藻岩山登山観察会	20日(土)	慈恵会登山口集合・解散	主催	昼食持参		
3	21日(日) 10:00~12:30	森の中で春をさがそう	20日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	芽吹き・野鳥観察・交流食事会	

平成21年 小樽支部自然観察会予定

(北海道ボランティア・レンジャー協議会・小樽支部)

No	月日	行き先	見どころ	集合場所・時間・担当リーダー
1	5/2 (土)	オタモイ～春香山	春植物	小樽市総合博物館と共催・路線バスオタモイ駐在所9時(北原)
2	5/31 (日)	松倉山と春紅葉	初夏の植物	天神浄水場前広場9時、自家用車は白井澤分岐広場9時30分(魚野)
3	7/3 (金)	軍用道路	古道を歩く	張碓橋旧道分岐9時まで(一鉄)
4	9/12 (土)	塩谷丸山～最上町	初秋の山	JR塩谷駅前駐車場8時30分(大倉)
5	10/10 (土)	神居尻山	紅葉・キノコ	自家用車乗り合わせ・小樽駅前(第3ビル前)6時(松原)
6	11/7 (土)	小樽市有林内・納会	カラマツ黄葉	路線バス商大線終点駐車場9時・1/2時より納会(北原)
7	2/13 (土)	穴滝(氷瀑)	カンジキ歩き	天神浄水場前広場9時(魚野)
8	3/27 (土)	最上町～丸山	カンジキ歩き	最上町バス終点先5差路北側グラウンド側入り口9時(一鉄)

参考

- 1, 約一週間前、道新小樽版、読売金曜夕刊等に集合場所、時間などを再掲します。
- 2, 天候外の都合で、日時等変更することもありますので、事前の申し込みをお願いします。
- 3, 参加料は、一人300円、交通費は各自負担願います。
- 4, 自家用車の方は、その旨連絡願います。(駐車状況、乗り合わせの可否)
- 5, 問い合わせ先などは、0134-27-1701、北原まで

平成21年度予算(案)

収入の部

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
前年度繰越金	309,105	233,335	
年会費	375,000	390,000	会員125×3000円
雑収入	55,895	11,665	保険料、協力者礼金
合計	740,000	635,000	

支出の部

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	
総務部費	110,000	100,000	総会案内等通信費、会議室借用費、振替手数料
事務局費	100,000	100,000	通信費、事務用品費
研修部費	100,000	100,000	研修会講師謝礼金、研修雑費
活動費	200,000	100,000	地方支部活動費、観察会交通費
広報部費	160,000	160,000	会報えぞまつ制作費、郵送費
予備費	40,000	45,000	
特別会計	30,000	30,000	特別積立金へ繰り入れ
合計	740,000	635,000	

総会の付属資料から

種類数順位と高度

〔北海道中央高地の高山植物〕～鑑論操・数島悳一郎(1959・旭川協林会)より抜粋

山名	種類数	海拔高(m)	山名	種類数	海拔高(m)
小泉岳	102	2150	オブタテシケ山	43	2013
黒岳	102	1980	凌雲岳	41	2131
平山	101	1796	姿見ノ池	41	1640
富良野岳	96	1912	石狩岳	40	1980
ニセイカウシュツバ山	92	1878	上ホロカメトック山	40	1887
トムラウシ山	87	2141	北鎮岳	40	2246
高根ヶ原	81	1740	旭岳	38	2290
白雲岳	73	2229	美瑛岳	38	2052
忠別岳	66	1963	比布岳	35	2191
永山岳	57	2046	北海岳	28	2161
化雲岳	57	1925	裾合平	27	1700
沼ノ原	48	1450	桂月岳	25	1850
十勝岳	48	2077	間宮岳	17	2180

アポイ岳研修会

1, 期日：5月23～24日（土・日曜日）

2, 目的

(1) 高山植物の再生作業を体験する。

●ササ刈りを行う。

●各自、鎌を持参（100円ショップで売っているもので十分です）

(2) アポイ岳の植物の観察をする。

3, 宿泊場所：アポイ岳調査研究支援センター（様似郡様似町字宇平）

4, 費用…一人：4,000円

(1) 内訳

・施設使用料：500円

・シーツ使用量：380円

・食事代：23日夕食、24日朝食、24日昼の携行食

・懇親会費

・その他

(2) アポイ山荘の入浴は各自

5, 日程

◆5月23日（土曜日）

●13:00 集合（アポイ岳調査研究支援センター）

●13:00～17:00 研修

高山植物の再生事業のお手伝い。ささ刈りを行う。山の中腹までの往復
2時間、研修と作業は1時間半程度。

●17:00～18:00 入浴・夕食と懇親会の準備

●18:00～ 夕食と懇親会・アポイファンクラブとの懇親会

◆5月24日（日曜日） アポイ岳登山と観察の日

●06:30 登山開始

●10:00 頂上着 グループ編成などを行い集団のまとまりをはかる

●10:30 頂上発

●12:00 解散のセレモニー

●12:15～14:00 昼食と入浴

●各自の家に向けて出発

セイヨウオオマルハナバチ防除

1, 目的

- ・特定外来生物に指定されたセイヨウオオマルハナバチを防除することにより、今ある生態系の持続の一助となりたい。
- ・市民参加型の活動を目指し、今年度はボラレン会員の防除技能の向上を目指す。

2, 日時：5月17日（日） 10：00～12：00

3, 集合場所：野幌森林公園 自然ふれあい交流館

4, 参加対象：ボラレン会員（バスターズに登録していなくても参加可能）

5, 日程

●10:00～10:30 セイヨウオオマルハナバチの研修

講師：堀 繁久氏（『探そう！ほっかいどうの虫』の北海道新聞社刊の著者・北海道開拓記念館学芸員）

●10:30～12:00 防除作業

- ・各班に最低1名のバスターズが必要

★テクノパークの裏 ★東7号線 ★開拓の村の前広場

●12:00 ・捕獲報告用紙記入

- ・捕獲したハチの処理

6, 事前

(1) セイヨウオオマルハナバチバスターズ登録

- ・各支庁に請求すると、申請用紙を郵送してくれます。

(2) 捕獲用具の準備

- ・捕虫網（100円ショップにあり）・大きめのフィルムケース
- ・バスターズは、腕章・バッジ

(3) 事務局

- ① 捕獲報告用紙の準備
- ② フィルムケース予備の準備
- ③ 防除場所の確認
- ④ 防除場所の担当者を決める

オオハンゴンソウ防除

主催：ボラレン 協力：自然ふれあい交流館

1, 目的

- (1) 生態系を保持するために、生育範囲を広げているオオハンゴンソウを防除する。
- (2) 自然保護思想の普及のために、一般市民参加の防除活動を行う

2, 日時：平成21年7月26日 (日) 10:00~14:00

3, 場所：野幌森林公園

4, 集合場所：自然ふれあい交流館

5, 参加対象：ボラレン会員・一般市民

6, 持ち物：軍手・剪定ばさみ鎌など根を切り落とす道具・昼食

7, 当日の日程

- ・09:30 受付開始・ボラレン会員打ち合わせ
- ・10:00~10:30 開会セレモニー
- ・10:30~11:00 現場に移動
- ・11:00~12:15 ハンゴンソウの抜き取り作業
- ・12:15~13:00 昼食
- ・13:00~13:30 後始末
- ・13:30~14:00 移動と解散
- ・14:00~ ボラレン会員による
 - ・ゴミ袋搬出作業
 - ・堆肥場の整理など

8, 防除方法

- ・引き抜く…なるべく、地中に根の破片を残さない
- ・根を切り取り、ゴミ袋へ
- ・咲いている花は、切り取りゴミ袋へ
- ・切り取った根と花は焼却処分
- ・茎と葉は場所を決めて積み上げ堆肥にする。

9, 準備日程

(1) 事前

- ① 特定外来生物防除の認定申請書作成 環境省北海道事務所
- ② 江別市廃棄物対策課に依頼 ゴミとして収集
- ③ 北海道環境生活部環境局自然環境課野幌森林分室の了解
- ④ 自然ふれあい交流館との協力要請
- ⑤ 広報活動

(2) 前日下見 (7月25日)

- ① 作業現場の設定と目印
- ② 作業現場標示物確認
- ③ 作業手順の確認
- ④ 堆肥場と袋集め位置の確認
- ⑤ 受付名簿・胸章の確認
- ⑥ ゴミ袋などの準備の確認
- ⑦ その他

(3) 仕事の分担

- ① 総務…受付・受付名簿・胸章用意・救急用具
- ② 広報部（会場）…作業範囲の決定と目印・「オオハンゴンソウ防除中」の表示
堆肥場設定・ゴミ置き場設定
- ③ 研修部（説明）…特定外来生物の説明・オオハンゴンソウ防除方法の説明
- ④ 研修部（用具）…ゴミ袋などの用意
- ⑤ 本部…取材対応（会長）・全体総括（五十嵐）・タイムキーパー（春日）
記録写真（佐藤）・アンケート作成（五十嵐）

(4) ボラレン会員の役割

・オオハンゴンソウの防除をしながら、一般市民の方の面倒を見る。

総会の付属資料から

高山植物区の起源

第4紀洪積期には4回の氷河時代があり、その時代の最大氷河は、現在の陸上地域の27%に達したといわれている。氷河時代に、氷河の南下に伴って、周囲植物は次第に南に押しやられ、氷河の末端部に集まった。氷河期と氷河期の間の間氷期には、氷河は再び極地方に後退したが、周囲植物の一部は高山に登り、ここで彼等の新しい分布領域を築き上げた。

一方、第3紀末から第4紀にかけて、北海道は大陸と陸続きの時代があったり、海で隔てられたり、再び陸続きになったりして、現在のような日本海によって隔てられるようになった。その間、大陸の植物は北海道に移住してきたり、その逆も起こったと考えられる。東亜と北太平洋地域、あるいは北米との共通種の分布の起源に関しては、ベーリング陸橋が重要な役割を果たしたと思われる。このようにして、北海道における高山植物分布の基礎ができ上がり、今度は、北海道内部において、種々な分化が起こった。例えば、シコタンソウから別種のユウバリクモマガサが誕生したり、本州のオヤマノエンドウは、北海道中央高地において亜種として分化し、エゾオヤマノエンドウになり、千島産のチシマルリソウは、北海道の高山でその変種エゾリソウに分化するというような分化がくり返されて、今日の北海道の高山植物区系が成立したと考えられる。

北海道高山帯植物の区系植物地理—豊国秀夫（北海道山草趣味の会）より



大雪山系に高山植物が多いのは、大雪山が北上種や南下種の交差点であること。更に広大で連続した山であり、環境も多様なので、氷河期と間氷河期に多くの種類が避難可能であったからである。

アポイ岳会員研修会

副会長 五十嵐一夫

5月23日、天候に大いに不安あり。自宅を9時10分に出発、様似町へ向う。江別西インターから日高富岡までは高速、その後は一般道で、快適にあくまでも無謀なスピードは出さずにノンストップで3時間15分、目的地に到着。途中、海霧が出て視界不良のため、数少ない追い越しポイントでも、幸か不幸か、たまたま先頭になってしまった私を抜こうとする車はなかった。冬島で国道を離れ、アポイ岳に向う道に入ったとたんに晴れていて、アポイ岳がくっきりと見える変な天気。

昨年に続くアポイ岳会員研修会。今年は初日に笹刈り実習です。今年も様似町教育委員会の田中学芸員にお世話になりました。現場はアポイ岳登山道5合目休憩小屋直下の尾根です。4合目を過ぎ、5合目小屋が見える直前で登山道を外れ、踏み分け道を数十メートル歩くと到着です。昔の登山道があった場所だそうです。

幅5メートル、長さ30メートルほどの区画が並んで2条。高さ2メートルの金網で区切られて天井にも金網が張られています。所々に出入り口がつけられ厳重に守られています。何から守っているか解りますか。エゾシカです。一条はすべて表土をはぎ、階段状に石で土留めしてあります。こちらは既にエゾコウゾリナやアポイタチツボスミレが着生していました。もう一条は表土をはがさずに笹刈だけの区画です。こちらはまだ、目立った植生回復は見られません。

さて、私たちの実習の場は、金網の外。鹿が自由に立ち入ることのできる場所です。いたるところに鹿の糞があります。眼下の雲海を眺めながら、「焼酎飲みてえなあ」とつぶやく人、鹿の糞を転がしながら「奈良の春日野、青しーばにい」と口ずさむ人。単調な作業も楽しく進みます。ヒロハヘビノボラズがたくさん残っています。棘があるので鹿は食べません。昔の登山道ということで、古いごみが散乱しています。ファンタの空き瓶(空き缶ではない)、大日本麦酒の空き瓶(戦前です)。小一時間もやったでしょうか。雲が出てきてだんだん暗くなり、みんな早く温泉につかりたいモードになり、この日の研修は終了しました。

夜の懇親会は、豚汁を作って和気藹々。田中さんのほかファンクラブの方も来てくださいました。谷本会長は、様似で通夜があったのに、夜に顔を出してくれました。教育委員会の水野課長も、隣のアポイ山荘でドイツ人の相手をしていたそうですが、

途中で抜けて参加してくれました。感謝。それにしてもアポイ岳、インターナショナルな山ですね。

6時40分出発。登山研修の始まり。小林研修部長を先頭に総勢13人、ラストは私が務めます。曇りがちなが、雨の心配はなさそう。

樹林帯の中は、オオサクラソウが見ごろ、他にはミヤマスマレ、センボンヤリなどを散見。イチヨウランを始めて見ました。登山道脇なのでもう盗られて無くなっているでしょう。5合目からたくさんの花が迎えてくれます。アポイタチツボスマレ、アポイアズマギク、サマニユキワリ、ヒダカイワザクラ、エゾキスマレなどなど。登山道から離れていたのではっきりしないけど、多分アポイキンバイ。最高の花見登山です。

下りの樹林帯でエゾシカに遭遇。田中さんによると、オオサクラソウは食べません。エゾシカの侵入により、アポイ岳の植生が変ってきたそうです。エゾシカの白い尻を見て、思わずセイヨウエゾシカとつぶやいた。アポイ岳にとっては、ミヤコザザすら食べつくす憎き外来種といったところ。

来年も笹刈りを続けたい。アポイの植生変化を見守りたいと強く考える研修でした。今回の研修に特段のサポートをいただいた谷村会長、田中さん、アポイ岳ファンクラブの皆さんに感謝感謝。



新しく取り組む アポイ岳でのササ刈り

アポイ岳研修会に参加して(5月23日・24日)

江別市 松本 亜由美

昨年、ボランティアレンジャー育成研修会に参加し、“知識の向上と成長”という意味で入会してみたものの、昨年度は一度も観察会に参加できずに何もしないまま時間だけが過ぎてしまいました。せっかく頂いたネームプレートと腕章を一度もつけていない……。そんな状況の中、研修会のお知らせのはがきが届き、知識も経験も何もないけど今年こそはと思い、アポイ岳研修会に参加することにしました。

今回、初めての活動参加ということで、研修当日は胸をハラハラ・ドキドキさせながら現地に向かいました。初日は、現地のアポイ岳ファンクラブの方と一緒にアポイ岳に登り、その途中で“イチヨウラン”と“イチヨウラン”を発見しました。最初、聞いた時は違いがわからず、「何が違うのだろうか?」と思いながら、ただただ、みなさんについていくので精一杯でした。4合目辺りまで登ったところには、シカの対策として一部に囲いがありました。その近くでササ刈りをしていたのですが、そこでは、シカの糞がいたるところにあり、「何か洞爺湖の中島と似ているな……」と感じながら作業をしていました。作業途中で一息ついていると、雲の隙間から海が見え、そこからのきれいな景色に癒され、日々の疲れが取れてしまいました。その日の夜に、アポイ岳ファンクラブの方にアポイ岳の植生とシカのことについて話を聞いたときは、やはり、洞爺湖の中島と同じような状況に置かれていると感じました。2日目、4合目までは昨日と同じ道をたどって登ってみましたが、前日に見た花が見つけれず、頂上目指してひたすら登り続け、途中で周りを見渡してみると雲海もきれいに見え、すばらしい景色に感激するばかりでした。

今回、『アポイ岳研修会』に参加して、改めて自分の知識のなさを感じ、さらに、これで自分は大丈夫だろうかという気持ちになりました。ただ、アポイ岳に登るのも初めてで、あまり高山植物を見る機会がなかったので、この研修会に参加することで、とても充実した2日間を過ごすことが出来ました。また、大学の実習とは異なり、新鮮な気持ちで研修に望むことができました。

私は、研修から戻ってきた次の日から時間をみつけ、図鑑と自然観察ハンドブックを持って野幌森林公園に入り、ただ散歩をするのではなく、小さな花に目を向け、鳥の鳴き声に耳をかたむけ、「これはなんだろう?」と考えながら散策するようになりました。今後は、少しずつ観察会の下見などにも参加して、みなさんと一緒に自然観察をしていきたいと思います。

「セイヨウオオマルハナバチバスターズ」に参加して

千歳市 宮本 健市

5月17日(日)10時から12時の間 野幌森林公園 自然ふれあい交流館や、その周辺において特定外来生物のセイヨウオオマルハナバチ「以下セイヨウオオ」バスターズが北海道ボランティアレンジャー協議会の初めての行事として行われ補虫網を手に多くの人々が参加しました。

前半は、北海道開拓記念館の学芸員 堀 繁久 氏を講師に迎えセイヨウオオの生態、生態系への影響、北海道の生息範囲の推移、(現在は全道的)、捕獲の方法などを学び、後半のフィールドへ、百年記念塔近くのエゾヤマザクラやカスミザクラにマルハナバチがいて補虫網を差し出すも高いところにいて難しく、それでも何とか捕獲これはいける！と思いきやセイヨウオオの好きな外の花は端境期、見かけるマルハナバチも在来のマルハナバチでセイヨウオオ2頭を捕獲して凱旋しバスターズは終了しました。

私が住む千歳市はトマト農家が多く、そこから逃げ出したセイヨウオオも多く4月下旬から5月上旬のエゾエンゴサクの花で120頭近くを捕獲し東京大学へ報告済です。

見かける98%近くはセイヨウオオで花粉魂を付けている個体も多く確実に営巣しているものと思います。

夏季の働きバチの捕獲は捕まえても捕まえても何かむなしく感じます。

しかし捕獲すると次の年に減るという報告もあり励みになります。

補虫網を担いでウロウロしていると「危ないオジサン出現」のような目で見られ警察に通報されるのではと心配になりますが、なるべくセイヨウオオのバスターズ腕章を目に付くところに掲げ、また秋の新女王出現時にがんばりたいと思います。

また秋には普段あまり目にしない雄バチも見ることができます。

野幌森林公園のような孤立したところにもセイヨウオオが侵入しているのは確実で、生態系への影響が心配です。

日頃から関心をもって野幌森林公園の自然を見守り大切にしたいと思います。



新しく取り組む

セイヨウマルハナバチ

防除

野幌森林公園で

セイヨウマルハナバチ監視活動についての注意

富良野市 南部 栄一

これは東京大学保全生態学研究室からのマルハナバチ捕虫時の注意事項です。昨年、監視活動のモニターの方から、セイヨウオオマルハナバチ「マルハナ」に刺されたことにより、アナフィラキシーを起こされた報告がありました。幸い、症状が出て直ぐに病院を受診され、適切な処置を受けられ、大事には至らなかったとの報告がありました。

これまで、活動中にハチに刺された経験の方はいると思います。アナフィラキシーはアレルギーの症状なので、一度目が大丈夫なら、二度目も大丈夫、とは限りません。更に人によっては初めての場合でも、アレルギーを起こす可能性もあり事前の予測は容易ではありません。「但し、病院でハチ毒の抗体の有無の検査は可能です。」

◎ 事故の発生状況

モニターの女性が新女王バチに左手薬指を刺されました。これまでも何度か刺されたことがあり、その際は刺された部分がチクチク痛む程度だったが、今回は数分後、耳が火照り、目が充血しはれぼったく、皮膚に発疹、脈が速拍などの症状がでたため、病院へ。刺されてから約70分後に病院到着。処置後30分程で湿疹も薄くなり、症状安定。経過観察のため一晩入院し、翌日退院した。

◎ 対応策

- ① この人は家事用ゴム手袋をして活動していたが、防御手段として手袋着用の場合、皮手袋か厚手の手袋が理想。
- ② セイヨウに刺されるのは襲ってきて刺された報告はなく、「網から容器にハチを移すとき」「巣を掘り出している時」が多いので、「ハチを逃がさない」より「ハチに触らない」ことを最優先に活動する。
- ③ 参考情報として、あらかじめ医療機関を受診し、アナフィラキシーショックを起こす可能性が高いと診断された場合、「エピペン」という自己注射製剤の処方を受けることができます。

◎ アナフィラキシーショックとは

ハチ毒や食べ物、薬物などが原因で起きる急性アレルギー反応。蕁麻疹や紅潮「皮膚が赤くなる」などの皮膚症状、時には呼吸困難、めまい、意識障害などの症状、急な血圧低下等のショックがあると命の危険を伴うこともある。

以上、昨年セイヨウオオマルハナバチ捕虫中の事故報告の概要です。

今年ボラレンでもバスターとして活動と聞きましたが参考にして頂ければ幸いです。

トゲウオのこと

苫小牧市 谷口勇五郎

08年5月、某研修会で、西岡公園のダム湖の上流100mぐらいから小さな水溜りがあり（年に1～2回、他の水溜りや小川につながる）水深も10～20cmぐらいで泥は深そうです。



イバラトミヨ (0.7倍)

ある水溜りに着き、イバラトミヨの巣を探すように指示されました。講師は水中写真家で淡水魚の研究家の桑原先生でした。水溜りの縁に行くと、イバラトミヨが一斉に、さーあと逃げて姿を隠しました。5～10分過ぎると、ちらほら小魚が見え出し、泳ぎ進み、そして止まる、それぞれ自分の巣に戻ると言う。巣はピンポン玉ぐらいの大きさと、枯れ草のすじなどを尿で付着させるというものの、もやもやしていたり、枯れ葉の下にありそうだったり、よく分かりません。誰かが「これじゃないの」と言う声で「どれどれ」と行って見ると、これはよく分かる、枯葉の茎のすじの塊で、小さな穴（径7～8mm）もよく見える。体の黒い子が巣の穴に口先を近づけ、胸びれを前後させて穴に水を送り込んでいる様子が分かる。人が近づいているのに魚もだんだん慣れてきたのか、神経質な動きをしなくなってきました。講師の説明では子は縄張りを確保し、巣を作り、♀が来ると頭を上下するような簡単なしぐさで早を誘い、巣の中に入れ産卵させ、♂が入り受精させる。1回に20～30個の卵を産ませ、その後3週間ぐらいの間に別の♀に5～6回産ませ、7～10日ぐらいでふ化する。♀は何回か巣を変えて産卵、ふ化後もある程度♂が保護するという。

苫小牧辺にいるトゲウオ科はイトヨ属とトミヨ属に分かれ、いずれも繁殖期に♂が巣を作り、子を保護するという。イトヨ属のイトヨは海で生活し川に上り産卵する降海型と一生を淡水で過ごす陸封型のうち、前者かと思います。背びれに3本の長いトゲがあり、繁殖期（4～5月）の♂は青と赤の婚姻色になるそうです。トミヨ属にはイバラトミヨが殆どで、全長5cm、背びれの前に7～10本の短いトゲがある。ごくまれにエゾトミヨがおり、全長6cm、背びれの前に10～13本の短いトゲがある。どちらも婚姻色は黒っぽい。苫小牧辺にいるトゲウオ（トンギョ）はだいたい、イトヨかイバラトミヨということになります。日新沼（自宅から3kmほど離れた、周囲約100mの沼）で、小魚が数匹見えるがどれも茶色、巣らしいものも分かりません。岸の枯れ草の所に1匹逃げ込んだので、タモで捕まえました。透かすと小さなトゲが沢山見えたのでイバラトミヨだと思います。これは一生淡水で生活するとのこと。北海道では1年で成熟し産卵、子育て後までの寿命のようです。

いよいよ本日のメイン縄文杉、幹周16.2m、樹高30m、1966年屋久島町役場(当時)の観光課長だった岩川貞次氏により発見され広く紹介される。発見当初は大岩杉と呼ばれていた。「縄文杉」という名前の由来は、当時推定された樹齢が4,000年以上で縄文時代から生きていることから来たという説と、奔放にうねる幹の造形が縄文土器に似ているからという説がある。周囲の樹木の年輪測定、幹周の大きさなどから当初、樹齢7,000年以上と推定され話題になった。しかし、その後の調査で古木の周囲を3本程度の若い木が融合して包み込んでいる合体木である可能性が浮上し、外側の若い木の部分の年代測定では樹齢約2,700年と判定された(芯部の古木は樹体保護のため未調査)。ただし、鹿児島大学農学部が縄文杉のパルオキシダーゼをアイソザイム分析した結果、縄文杉は合体木ではなく一つの木であることが証明されている。また、調査によって倒木更新の痕跡も見られている。また約7,300年前に鬼界カルデラから広がった幸屋火砕流によって、屋久島を含む九州南部諸島の大型植物は全滅したと考えられており、縄文杉の樹齢は古くとも4,000年以上はさかのぼらないとするのが定説になっている。一方で、後代に持ち込まれた記録の無いヤクシマザルなどの大型動物が現存していることから、屋久島全体が火砕流に飲み込まれたのではなく一部の動植物は生き延びたのではないかとする意見もあるそうです。縄文杉の周りはテラスになっており、登りと下りの階段があり、監視カメラ付、人が誰も居なく、縄文杉を満喫する。縄文杉の圧倒的な存在感、何かしらのパワーを感じる。ここも一つのパワーポイント、皆が見に来る気持ちが解かる。雪の重みで折れた枝が自然のままに放置してあり、今まで荒れ放題の根の付近の植生回復の為何種類かの木が植林されていた。縄文杉のあたりは色々な所から水が流れており、所々に樋が有り、流れる水の味を楽しむ、場所場所で味が違う。次に右手に現れるのが、仲良く手を繋いだような夫婦杉、幹周12.56m、樹高26m、樹齢2000年、登山道からは少々離れているため俯瞰する形となるが、根元付近の太さはかなりのものに見える。縄文杉寸前にあるためか、それほど注目度はないようだが、どうしてどうして見事な巨木である。国に枝が上部で繋がった連理の木は数多くあれども、ここまで離れているもので連理しているものは珍しいとの事。連理木(れんりぼく、れんりぎ)とは、2本の樹木の枝、あるいは1本の樹木の一旦分かれた枝が癒着結合したものだ。自然界においては少なからず見られるが、一つの枝

が他の枝と連なって理（木目）が通じた様が吉兆とされ、「縁結び」「夫婦和合」などの象徴として信仰の対象ともなっている。なお、違う品種同士で連理となる場合も有るそうです。この辺には巨木が沢山有り、見ていて飽きないが、どれが有名な杉か銘板が無いとわからない。

次に現れるのが、幹周11.0m、樹高28m、樹齡300年以上、縄文杉が再発見される以前は屋久島最大とされたスギで、その名も大王杉と命名されていたことから、かつては屋久島を代表するスギであったそうです。この降りは、階段状の木道を降りるので、足の裏が痛くなり、かなり大変。大王杉から40分強でウイルソン株、樹齡3000年、根廻り32m、胸高直径4.39m古株の中は空洞になっていて、小川が流れて広さは10畳ほどの大きさです。1586年（天正5年）牧村の五郎七が足場を組、豊臣秀吉の命令により京都の方向寺建立の為に切ったとされ、米国のウイルソン博士によって世界に知らされたのでこの名がついている。中に入って上を見ると空が見え、まるでトトロの世界、中を流れる小川の水を堪能、ここも美味しい。この時点で16時近く、この先白谷小屋まで順調に行っても3時間、昨日の降りの事もあり、K、N 両姉の体調、足の状態を考え、ヘットランプの行動を避けるべく付近で適当なビバーク地を探す。ガイドブック付録の地図を見ると、大株林道入り口にトイレと水場の印があり、ここを候補とし降る。途中テラスでテントを張る登山者と遭遇、ここから高塚小屋までに行くには無理があるので、賢明な判断と思われるが、テントのサイズがテラスに合わないらしく、いい場所が無いかと尋ねてくるが、ここが最良と告げ、先を急ぐ。30分で大株林道入り口、橋を渡った所に立派な水洗トイレ、二階建て、電気も自動で点く、中で張ろうとIさんが見に行くが、臭いが酷いので表で張る。水場もそばにあり最良のテマ場、翌朝の登山者の到着時間を考え、起床時間を決め、宴会モードに入る。N 姉疲れもあり早々に就寝、今日の飲みしろが無くなり、全員就寝。

11月15日6時起床、早い登山客が、7時半頃到着、既にテント撤収済み、彼らは車で着たとの事、トイレ前のベンチで朝食を食べている。いよいよ今日はトロッコ林道、軌間は762mmでいわゆるナローゲージ、レールが10キロレール（10kgレール、高さ66.67mm底部幅66.67mm、頭部幅34.13mm、長さ5.5m）ポッポ屋の性！この軌道上を歩き易い様に板が敷居いてある。軌道上を歩いていると次から次からと登山客や観光客がどんどん登ってくる。幾度となく道を譲る。ほとんどのグループが

ガイド付き、数百名はいただろうか、皆縄文杉を目指している。若い女性の多さに驚く、山とは大違い、皆縄文杉のパワーを貰いに行くのだろうか？その中にポリタンクを背負子で担ぐ集団、雲水峽で謎が解ける。彼らはし尿をポリタンクで運ぶ人たちでした。ご苦労様です。安房北沢を右手に見ながら降る。所々の溪谷美を楽しむ、南の島の照葉樹林、北海道で見かける植物はほとんど無く、所処の植物名板で確認するくらい。なんとなくスタンドバイミーの世界、1時間40分程で三代杉、樹高41m、周幹3.77m、樹齢300年、根の部分の肥大が顕著であり、中は完全な空洞と化して、その上にはまだ若いスギが勢いよくかなりの高さまで成長している。解説板によると、三代にわたって生き続けて来ているもので、現在も成長中の三代目のスギそのものは、ごく普通の大きさで。しかし、基部から自分の足で立っていないところがこのスギの最大の特徴なのだそうで、今見られる根元部分の太い幹は二代目のものと考えて良いとの事。環境省の資料は、おそらく三代目の成長している上部の幹周を計測したもの、根元自体の太さは10m近いと思われる。小杉谷山荘跡を過ぎるとほどなく楠川の分れ、想像していた道と違いちょっとショック！トロッコ道の様に広い道と思っていた。そこから辻峠まで1.4キロ、ほぼ1時間、楠川歩道を歩き始める。楠川歩道は、2百年～3百年も昔、山で男達が切り出した杉を山で平板に加工し、それを里へ運ぶ為に使われていた道だったらしい。運ぶ役目は女性や子どもが担当したと言うのだからすごい。花崗岩を敷いて歩きやすくしていると言っても山道であり、古道の感じがする。後日やっていたTV番組で言っていたが、屋久島は花崗岩の上に花崗岩の風化した物が乗り、その上に火山灰、表土は僅か5cmとの事、その上に根を張る植物の凄さに驚かされる。見渡しても下草がほとんど無く、木の根が大地を覆っている。また雨が多いせいか表土も流されている。稜線が見えてきた、あれが辻峠かなと期待を懐く。近藤姉腸の不調を訴える。辻峠より100程手前に辻の岩屋が現れる。ここは昔人が泊ったと思われるし、今も利用する人がいると思う。ここは、もののけ姫のモロー族の住む岩屋のモデルだそうです。岩屋から15分程で辻峠、ここから太鼓岩を目指す。体調の悪いK姉を残し、登り15分で太鼓岩。(標高1050m)展望の良い花崗岩の巨岩で、天気良ければ眼下に小杉谷周辺、安房川がよく見え、奥に太忠岳、安房岳、翁岳、栗生岳、宮之浦岳などを望むことが出来る。がしかし生憎の曇り空で風も強い、あまり期待しないで登っていったが、期待以上の眺望に驚く。小雨がぱらついてきたので、写真を撮って辻峠に戻る。登りと降りて道が違うようだが、降りが長い様なので、人も少ない

から、来た道を引き返す。楠川歩道と違い辻峠は雲水峡から登ってくる観光客であふれている。昨日の本来の宿泊地、白谷小屋を目指す。途中雨が気になりだしたので、雨具上衣を羽織る。途中もののけ姫の森と言う所が有り、苔むした感じが幻想的な雰囲気醸し出している。ここは言わずと知れたもののけ姫のモデルとなった場所、さすが観光客が多い。杉と水、それに苔、思わず脳裏に米良美一のもののけ姫のテーマが流れる。辻峠から40分程で白谷小屋、ここは昔管理人が居たそうで、その面影が残っていた。収容人数40名でトイレや水場もある。トイレ休憩の後雲水峡を目指す。くぐり杉をくぐり、しばらく行くと増水時通行注意の沢の渡渉場所が現れる。さつき吊り橋を渡り、飛流落しを通り、憩いの大岩を抜けて、やっと白谷広場、白谷橋の元に遊歩道の起点となる管理棟が建っていて、ここで森林環境整備推進協力金300円を払う。ここで体調の悪いk姉をバスに乗せることにし、縦走中知り合ったペアに頼み、さらに楠川歩道を降る。管理棟の係りのお姉さんに状況、時間を聞き降る。途中の林檎のような実の生る木の名前がわかり一同納得、林檎つばき、降るにつれまた新たな木の実、柿の小型な実、名前の分からない木や実が次から次と現れる。途中コース表示のテープが色々張ってあり、ちょっとコースを誤るが、すぐに修正、沢沿いを降って行く、ここは別名奉行歩道と言うそうで、最近歩く人はほとんどいなと思われ、所々荒れている。やっと杉の植林の林となり歩きやすくなる。ここを平板を担いで降りた昔の人に敬意を表す。杉林が終わると舗装の林道となり、植生もガラッと代わり、クワズイモ等が現れる。南の島、ヤシの木やシダが出てくる。そのうち人家が現れる。宿のご主人が迎えに来てくれた。Nさんとリュックを乗せてもらい、残り3名で楠川の集落まで歩く。16時30分楠川歩道入り口到着、長い屋久島縦走に幕、民宿「かつまる」に向かう、Kさんの状態を聞くと大丈夫との事、既に楠川温泉に入っていると言うので、車を借りて温泉に向う。久しぶりのマニュアル車で緊張、何とか楠川温泉に着く。5名くらい入れば満員の温泉、泉質は無色透明のアルカリ性単純泉で冷泉のため、沸かして適温にしている。楠川温泉は古くから地元の人々に湯治として親しまれてきた所。効能は、神経痛やリウマチ、皮膚病などに効果があると言われ、すぐ側には湯之河が流れており、水の流れを聞きながら風流に温泉を楽しむ。登山や旅の疲れも癒してくれる温泉で、ここも施設は決して立派とはいえないが、こういったところに情緒を感じてしまうのでしょうか。地元の人と観光客のふれあいの場所にもなっていた。データー、入浴料金 300円時間 9~20時休み 無休 住所 鹿児島県屋久島町楠川温泉1364-

入浴後、今晚の反省会のお酒を仕入れに行く、車で5分ほどのところにスーパーがあり、ここでお酒を仕入れる。御岳の販売方法を確認し、民宿に戻る。料理を食べに来い、寝るとこはどうでもいいという人が泊る民宿、その日獲れた魚を出してくれる。今日は魚とカニがメイン、アサヒガニの茹でたものクビオレサバ等の刺身、お父さんが獲ってきてくれた魚の鍋、お母さんの愛情こもった豚足、魚のだしがたっぷりの野菜鍋、もう最高！今日のビールはKさん提供、焼酎はN家提供、乾杯と共に酒宴の始まり、宮之浦岳、永田岳、黒味岳の御岳（三岳）を征した我々には御岳を飲む権利ができたと話していると、お父さんの秘蔵の御岳が出てきて、御相伴に預かる。お父さんお奨めの「おやっとき」も出してくれる。地元のお酒を飲み、地元の肴を味合う最高の反省会となりました。反省は延々と続き、声が裏返り、後は想像どおりとなりました。

翌朝は6時半に起床、朝食を済ませ、8時半にスーパーへ、既に数名並んでいる。今日の仕入れは18本、9時販売開始、並んでいる地元の人に他のお奨めの焼酎を聞くと黒伊佐錦が美味しいと言うので、皆で買い、旭川に宅配してもらう。この後は島内観光と温泉めぐりの観光客となるのでした。

11月13日（木）

民宿あんぼう発（6：30）⇒淀川登山口着（7：25）同発（7：45）⇒淀川小屋（8：40～50）⇒1556m付近休憩（9：40～50）
⇒花之江河（10：40～45）⇒黒味岳分岐（10：53～56）⇒黒味岳（11：25～38）⇒黒味岳分岐（12：01～13）
⇒投石平（12：40～55）⇒翁岳直下最終水場（13：50～14：00）
⇒宮之浦岳（14：40～15：00）⇒焼野三叉路（15：17～27）
⇒コル（15：50～16：00）⇒永田岳（16：35～48）⇒ロウソク岩展望台（17：10～20）⇒鹿の沢小屋着（18：15）

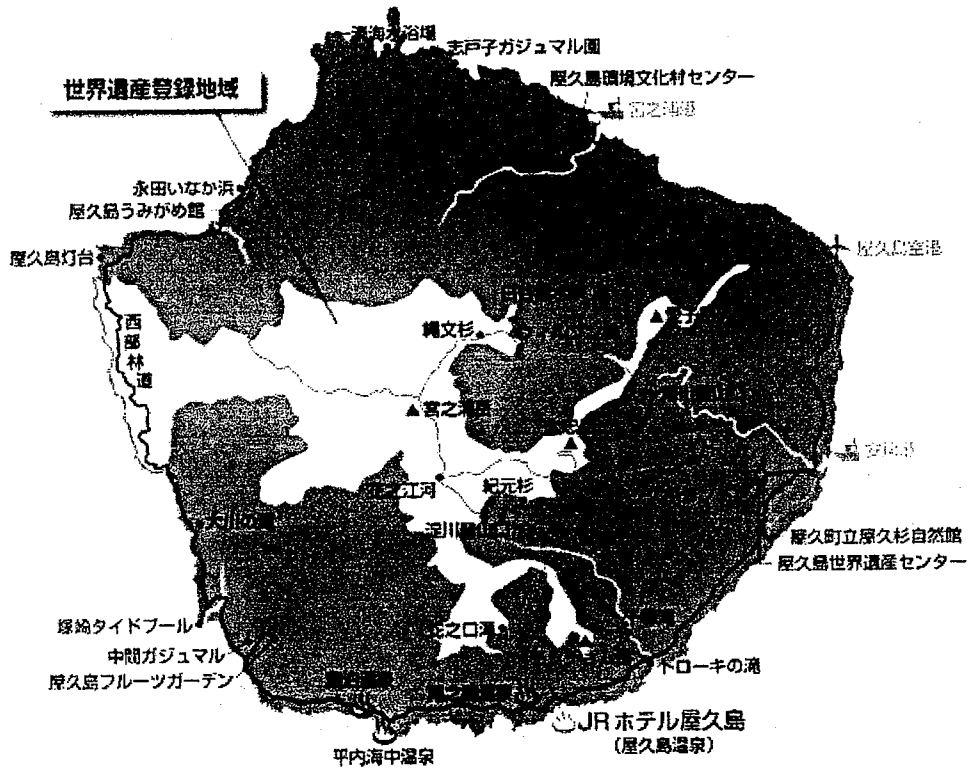
11月14日（金）

起床（5：00）⇒鹿の沢小屋発（6：42）修理用木材置き場休憩（7：50～8：00）⇒永田岳肩（8：14）⇒コル（8：30～50）
⇒焼野三叉路（9：32～42）⇒平石（10：04）⇒平石岩屋（10：21）
⇒休憩（10：34～45）⇒新高塚小屋（12：15～35）
⇒休憩（13：14～24）⇒高塚小屋（13：48）⇒縄文杉（14：05～14）⇒14：48（夫婦杉）⇒大王杉（14：52～15：02）
⇒ウイルソン株（15：45～16：00）⇒大株林道（16：30）トイレ前にてテント設営

11月15日（土）

起床（6：00）⇒大株林道トイレ前発（7：50）⇒三代杉（9：36～46）
⇒楠川の分れ（9：53）⇒休憩（10：38～48）

⇒辻の峠 (11:05) ⇒太鼓岩 (11:15~20) ⇒辻の峠 (11:37)
 ⇒白谷小屋 (12:14~30) ⇒休憩 (13:00~13:10)
 ⇒白谷雲水狭 (13:40) 近藤さんと別れ楠川歩道に入る (13:55) ⇒休憩 (14:43~52) ⇒林道 (15:27~37) ⇒楠川登山口 (16:30)
 以上コースタイムです。



平成 21 年度 第 1 回役員会

平成 21 年 5 月 8 日 (金) 18:30～ 環境サポートセンター

出席者：田村・五十嵐・佐藤・春日・三崎・橋場・小林・伊藤・今村・熊野・菅・田中・
中林・室野・高松

欠席：内山

I、開会

II、会長挨拶

III、報告事項

1、総務部

- ・総会後の懇親会

2、研修部

- ・4/23 春の花を見つけよう 一般60 ボラレン 12 名

3、広報部

4、事務局

- ・4/11 北海道ウォッチングガイドへ21年度主催観察会の連絡
- ・4/14 TGAL 5月号に三角山登山観察会案内掲載依頼
- ・4/14 自然ふれあい交流館施設利用願い…オオハンゴンソウ関連
- ・4/15 エコポロ掲載依頼文書発送…札幌市内開催観察会のみ
- ・4/15 保険手続き完了
- ・4/22 総会要項印刷・チラシ印刷・区民センター発送
- ・4/25 総会 会員総数139
本会出席36+委任状65=101
- ・4/30 みどりバンク通信へ…上半期主催観察会の連絡

IV、議事

1、総務部

2、研修部

- (1) 上半期の観察会当番の配置
- (2) 富良野東大演習林観察会

3, 広報部

4, 事務局

- (1) セイヨウオオマルハナバチ防除について
- (2) アポイ岳研修について
- (3) オオハンゴンソウ防除について
- (4) 小清水原生花園観察会について
- (5) ボランティア・レンジャー育成研修会について
・研修部を中心とする特別委員会の成立
- (6) 鶴川研修会について
・一日目ウトナイ湖鳥獣保護センター集合で鳥の研修
・宿泊…鶴川
・二日目…鶴川で、鳥の観察
- (7) その他

5, その他

V、次回予定

VI、閉会

ボランティア活動保険加入証をお届けします

次の項目を、自分で記入してください。

- 年度 21と記入
- 氏名 自分の名前を記入
- 加入プラン Aを○で囲む 人数は1名
- 補償期間 平成21年4月16日から 平成22年3月31日と記入

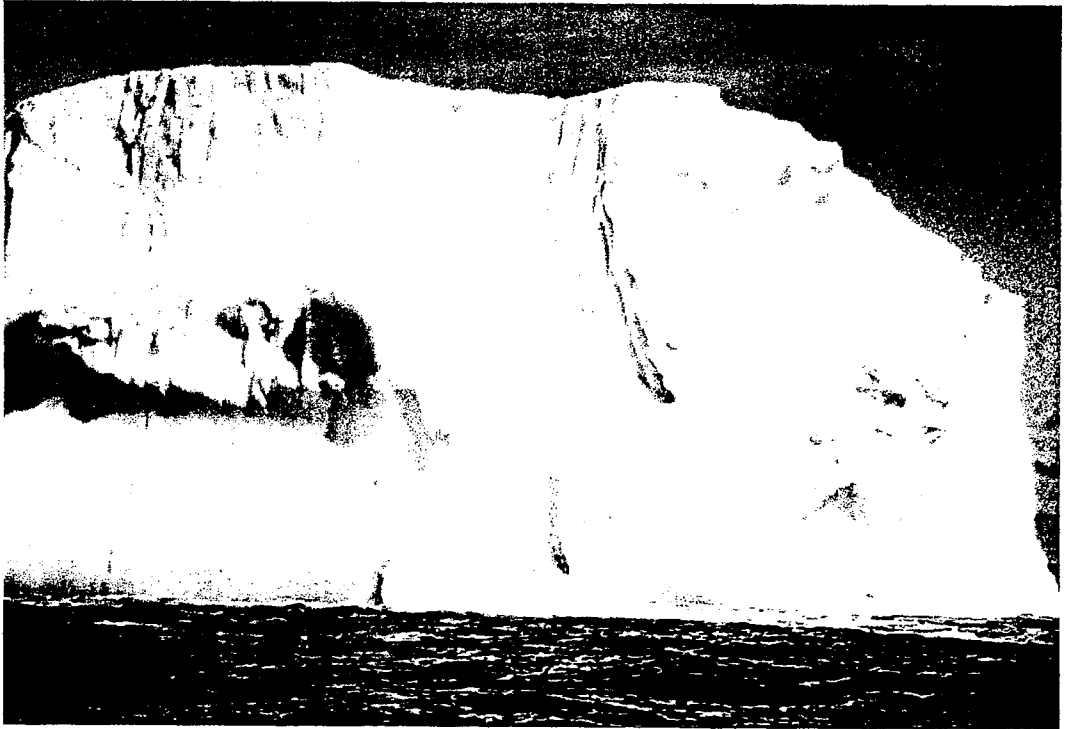
※ボランティア活動保険は、ボランティア活動中の偶然な事故により

- ①ボランティア自身が被った「ケガ」
- ②ボランティア自身が活動の対象者など他人の身体や財物に損害を与えた結果、ボランティア自身が法律上の賠償責任を負った場合の「賠償責任損害」に対する補償をセットにした保険です。

ボランティア活動中の事故に対応するために、ボラレン会員全員が加入して
ます。

流氷

平成 21 年 1 月 1 日発行 第 10 号
北海道ボランティアレンジャー協議会
オホーック支部発行
発行責任者 支部長 和泉 勇



年 頭 所 感

平成 21 年の新春を迎えましたが、アメリカ震源の世界的金融危機・貧富の格差が原点の国際紛争・麻生内閣の迷走・派遣労働者の年の瀬解雇などなど、政情不安と経済危機の幕切れ&幕開けとなりました。

そんな最中我がボラレン・オホーック支部は、曲がりなりにも「21 年 事業計画」を推進消化し、感激の薄い（〇）新年を迎えることになりました。

平成 20 年度の研修事業は、「西興部村郷土館講座」の「20 年度テーマ西興部村の植物」3 回目に協賛協力して頂き有難うございました。

遠隔の地まで参加された各位に敬意と感謝申し上げます <し> 明けましてオメデトウ

編集子

オホーツク支部秋季研修会御案内

日頃より、オホーツク支部の活動に、御支援、御協力頂き厚く御礼申し上げます。
さて、当支部秋季研修会を下記の通り開催することと致しましたので、御案内申し上げます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

記

1. 内 容 丸瀬布にある滝を訪ねる（山彦の滝，鹿鳴の滝）
昆虫館の見学
いこいの森散策
 2. 日 程 平成21年9月12日（土）15：00～現地集合
9月13日（日）昼頃解散
 3. 場 所 遠軽町丸瀬布上武利
 4. 宿泊先 「丸瀬布農村集落多目的施設 大広間」（やまびこ温泉 並列）
住所： 同上
☎： やまびこ温泉取次ぎ 0158（47）2233
寝具 一応ありますが、寝袋持参も可
 5. 負担金 宿泊、懇親会込み 1名 3,000円（当日現金にて申し受けます）
（尚、懇親会は、野外焼肉を予定しております。）
- * 連絡先 網走市潮見5丁目 122-15
ボラレン・オホーツク支部事務局
法師人 春輝（ホシト ハルキ）
☎ 0152-43-1942

ボランティア・レンジャー育成研修会

受講者募集



北海道には豊かな自然がたくさんあります。この豊かな自然をより多くの人を楽しんでもらい、また自然環境を大切にしてもらうために「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」が、各方面で活躍しています。

今年も自然ふれあい交流館や野幌森林公園をフィールドにして「ボランティア・レンジャー」を育成する研修会を開催します。

「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をやってみたい方など、初心者向けの内容となっていますのでお気軽にご参加下さい。

人と自然との橋渡し役でもある「ボランティア・レンジャー」になりませんか！

◇開催日 平成21年8月28日（金）～30日（日） 3日間の研修会です（雨天決行）

◇場所 自然ふれあい交流館、野幌森林公園

◇内容 28日（金） 自然と楽しむ「アウトドアゲーム」、安全管理のための「救急法」
29日（土） 野幌森林公園に関する「講演」、自然体験・観察の「プログラム作成と解説方法」
人と自然との関わり方の「観察会」「サンセットウォッチング」
30日（日） 「プログラムのフィールド発表」など
※ 詳しいプログラムは裏面に記載しております。



◇費用 無料
※宿泊費、現地までの交通費、食事代などは各自負担願います。
※各当日は原則、現地集合、現地解散となります。
※自然ふれあい交流館（大沢口）の駐車場は無料。

◇定員 30名（6月2日より受付開始。なお、定員になり次第締め切り致します。）

◇対象 3日間通して参加できる方、満18歳以上で自然に興味・関心がある方

◇申込方法 ご希望の方は電話にて下記の情報をお伝えの上、お申し込みください。
「氏名」「住所」「電話番号」「年齢」「交通手段（自家用車・公共交通機関）」

◇その他 当研修会に受講された方には、受講証と自然解説員のバッヂを交付いたします。
また「北海道ボランティア・レンジャー協議会」への入会も可能です。（希望者のみ）

主催：自然ふれあい交流館 共催：北海道ボランティア・レンジャー協議会

お申し込み・お問い合わせ先・・・

北海道立野幌森林公園 自然ふれあい交流館

〒069-0832 江別市西野幌685-1

電話 011-386-5832 FAX 011-388-7058

メール nfpvc@kaitaku.or.jp

ボランティア・レンジャー育成研修会 2009

～プログラム～

○1日目 [8月28日(金)]・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:20	開講式・オリエンテーション
10:30～12:00	野外実習【アウトドアゲーム】 ～自然とのふれあいを楽しむ
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～16:00	救急法・リスクマネジメント
16:10～17:00	講義【自然について】
17:00	終了・解散

○2日目 [8月29日(土)]・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～11:30	野外実習【自然観察会】 ～ボランティア・レンジャーの活動の実際 ～自然体験活動の指導法
11:40～12:10	講義【プログラム作成と解説方法（導入）】
12:10～13:00	休憩（昼食）
13:00～14:30	講義【野幌森林公園】 講師：島田明英氏（自然ウォッチングセンター代表）
14:40～17:30	実習【プログラム作成と解説方法】 ～グループワーク～
17:50～19:00	野外実習【ナイトウォッチング】【アウトドアゲーム】
19:00	終了

○3日目 [8月30日(日)]・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～11:30	実習【プログラム作成】 ～グループワーク～
11:30～12:30	休憩（昼食）
12:30～15:00	発表【フィールド発表】
15:00～15:30	ふりかえり
15:30～16:00	まとめ・講義 【北海道ボランティア・レンジャー協議会と、 ボランティアを行うにあたって】
16:00～16:30	閉校式・アンケート記入、解散

◇持ち物：野外活動に適した服装（長袖・長ズボン）、雨具、昼食・2日目夜の軽食など

◇アクセス：新札幌バスターミナル北レーン10番乗り場より

自然ふれあい交流館へは・・・JRバス「文京台循環線」乗車、[文京台南町]下車、徒歩10分

※天候や主催者側の都合により、プログラムを変更する場合があります。

指定管理者制度が導入され、野外博物館北海道開拓の村を管理運営している(財)北海道開拓の村が、平成19年4月1日より自然ふれあい交流館を管理運営しております。

自然観察会のご案内

平成21年5月～9月

北海道ボランティア・レンジャー協議会

自然の営みの素晴らしさを感じる楽しい観察会にしたいと思います。どうぞ、お集まり下さい。

三角山登山観察会

日時：5月31日(日) 10:00～14:00

集合場所：緑花会登山口

持ち物：昼食持参

三角山から尾根づたいに大倉山まで行きます。素晴らしい札幌の景観が見られます。ワニグチソウやエゾタンポポなどが見られます。

北広島レクの森観察会

日時：6月14日(日) 10:00～12:30

集合場所：レクの森入り口

北広島レクの森は特別天然記念物「野幌原始林」に隣接していて、自然度の高い広葉樹になっています。シウルザクラやハウノキの花、サカネランやトケンランなどの観察を楽しみましょう。

初夏の森観察会

日時：7月5日(日) 10:00～12:30

集合場所：野幌森林公園大沢口

自然ふれあい交流館

春の林床はすっかり姿をかえています。背丈の伸びた野の草たち、緑濃い樹木、キジバトの鳴き声など、初夏の気配ただよう森の中の

散策を楽しみましょう。

芸術の森周辺観察会

日時：7月12日(日) 10:00～12:15

集合場所：芸術の森停留所

芸術の森周辺は豊かな樹木に覆われています。真駒内川を見ながらの夏の観察会です。観察会を終えてから、緑の芝生での昼食や芸術の森での芸術鑑賞も楽しいものです。

オオハンゴンソウ防除作業

日時：7月26日 10:00～14:00

集合場所：野幌森林公園大沢口

自然ふれあい交流館

持ち物：昼食・軍手・オオハンゴンソウの根を切り取れるもの(鎌、剪定ばさみなど)

特定外来生物に指定されたオオハンゴンソウが野幌森林公園内で生育範囲を広げています。従来からの生態系を脅かすほどです。オオハンゴンソウを引き抜き、根を切り落とし、根は集めて焼却処分にします。

恵庭公園観察会

日時：9月6日(日) 10:00～12:00

集合場所：恵庭公園駐車場

秋の野の花でにぎわう恵庭公園の観察会です。

※事前の申し込みは必要ありません。

※参加費は保険料として、100円を徴収させていただきます。(オオハンゴンソウ防除は除く)

※事前の情報は下記へ問い合わせ下さい。

北海道ボランティア・レンジャー協議会事務局

春日 順雄

電話 881-4090

編集後記

- ・表紙は宮田さんがウトナイ湖でスケッチしたヒシクイです。
- ・今年の野呂一夫さんの講演はとてもステキなものでした。いつかの機会にまた講演をして欲しいものです。私たちの会にこうした優れた会員がいるのは嬉しいことです。
- ・3月22日、ふれあい交流館との共催「森の中で春を探そう」に、啓成高校の新聞部の皆さんが顧問であり会員でもある三浦治彦先生と共に参加しました。その取材記事が新聞に報道されています。宮本健市さんがステキなガイドをしてくれました。若々しい感性でうまく書かれています。ぜひ読んでみてください。
- ・5月17日、今回はじめて取り組んだ「セイヨウマツハナバチ」防除について宮本健市さん書かれています。また5月23～24日、アポイ岳でのササ刈りを含めて研修や交流会の様子は五十嵐一夫さん、大学生の松本亜由美さんが報告されています。アポイ岳フアンプラブの皆さんにとってもお世話になりました。
- ・オホーツク支部の機関誌『流水』の表紙と今年度の研修会の案内を載せました。表紙はカラーでとても迫力があり美しいです。佐野さん、小栗さん、法師人さんの紀行文や論文などが掲載されていました。次号から載せていきたい。
- ・会員の皆さんにく活動保険加入証>をお送りします。活動の際、事故などに対応した保険です。この号の関連するページを参照ください。
- ・今年の新しい行事、7月26日(日)「オオハンゴウソウ」防除があります。市民にも呼びかけ大きな行事になると思います。皆さんもぜひ参加してみてください。
- ・今年も8月28日～30日にかけて「育成研修会」が開催されます。知人、友人にも参加を呼びかけてみてください。
- ・次号は10月下旬の発行予定、10月15日まで北広島の佐藤まで原稿を送ってください。「ボラレン・広場」のコーナーなどにも。

『エゾマツ』 夏季号 89号
2009年6月24日 発行
会 長 田村 允都